4 構　造

4-1 機　能

1. 「一定の距離」離れた瞬間作動し、エアバッグ（気室）に炭酸ガスを送り込み膨らみます。 最大限に膨らむまでにも、衝撃を緩和する効果があります。

2. 胸部にあるカートリッジボンベ及び、キーボックスの背面部分には、事故の際にそれらの突起物が原因となる衝撃を緩和・分散させるために、緩衝材やキーボックスプレート（プラスチック製）が取り付けてあります。

3. 作動後、最大限に膨らんだエアバッグ（気室）は、徐々にガスが抜ける仕組みになっています。 アクシデントの衝撃度合いなどにより変わりますが、作動直後に身体への圧迫がありますが、徐々にガスが抜けて圧迫がなくなっていきます。息苦しい場合は、脱衣して圧迫を解消して下さい。

注意 ⚠ 4. ウェアの生地、気室、マジックテープ、ファスナー等が傷ついたり、破損した場合は、正常な作動をしません。取扱店にご相談下さい。再生出来ない場合があります。

注意 ⚠ 5. 事故などで作動し、傷・破損等が見当たらない場合でも取扱店、又は当方にてメンテナンスチェック〈※3〉を行ってから再使用する事をお勧めします。

〈※3〉メンテナンスチェックとは、ウェアなどに、傷・破損が見当たらなくても、その中に組み込まれている気室に破損がある場合がありますので、当方にて各気室に空気を入れ漏れがないか、又、組み込まれた部品に異常がないかを確かめる作業です。

4-2 気　室

1. 気室の素材は、筒状のウレタンフィルムを使用し、より強度をもたせ、作動時の衝撃を出来るだけ多く吸収するようにしてあります。

2. 通常、作動した瞬間の気室の圧力は、最大膨張時20kpa(0.2kg/㎠)程ですが、徐々にガスが放出され、圧力はさがっていく様になっています。

3. 炭酸ガス（CO2）はキーボックスからエアチューブを通り各気室(ウレタンフィルム)に送り込まれます。

4. 破損等に対する強度は、ウェアの素材、ウレタンフィルム及び、縫製強度によっても違います。また、接触する物の形状、強度、摩擦等によってもか変わります。

○ ヒットエアーは、衝撃によるダメージを少しでも和らげるために作られたものであり、接触物の形状及び、衝撃の度合いにより、破損等も考えられます。

6 作動時及び、作動後の注意

着用したヒットエアー付ジャケットが作動し膨らんだ状態になった場合、以下の点に注意して下さい

注意 ⚠ 1. ヒットエアーが作動の際、カートリッジボンベより炭酸ガスが各気室に充填される音や、キーボックスよりキーボールが抜けた際に伸縮ワイヤー等が馬に接触し、馬が予想外の動きをする場合があります。

2. ヒットエアー付ジャケットは、特に首を保護するため、膨らんだ際首周りに圧力がかかります。そのため、着用しているヘルメットのあごひもが取れにくくなったりする場合がありますが、その際は直ぐに前ファスナーやバックルを外して下さい。

3. 現場の状況に合せて慌てずに、脱衣して下さい。

4. 事故等により現場が危険な場合、安全な場所へ避難してから脱衣して下さい。

5. 瞬時に膨らんだヒットエアー付ジャケットは、身体に多少の圧力がかかりますが、徐々に炭酸ガスが抜けていくようになっています。
事故により膨らんだ状態で車両に挟まれたり、圧迫をうける状態になっても落ち着いて行動して下さい。

6. 膨らんだ気室が、大きな衝撃や鋭利な障害物により破損した場合は、気室前部の炭酸ガスが直ぐに抜けてしまいます。

注意 ⚠ 7. 乗馬中において何らかの原因により誤って作動してしまった場合は、慌てず、すみやかに安全な場所へ馬を移動させ適切な処理をして下さい。

注意 ⚠ 8. 作動の際、外傷の出来たヒットエアーは、取扱店や当方でメンテナンスチェックの上、カートリッジボンベを新しいものに取り替えて再びご利用下さい。
著しい外傷、部品破損の場合は、再生出来ない場合があります。

注意 ⚠ 9. 一度作動したヒットエアー付ジャケットを、やむをえずお客様が再生させる場合は、以下の点に注意して下さい。

○ヒットエアーに外傷（キズ・穴）等がない事を確認する。
○作動した時に、エアバッグが膨らんだ事を確認する。
○予備のカートリッジボンベは、モデル指定のサイズ（容量）で未使用のカートリッジボンベである事を確認する。

上記を確認した上で、問題がなければ、お客様の責任に於いて再生して下さい。
異常がある場合は、正常に作動しない場合があります。
詳しい再生方法は"作動後の再生"P21～25を参照して下さい。

3 名称・形状

各名称・形状

※デザイン、形状等は写真と異なる場合があります

7-2 キーボックスの再生作業

1.再生に必要な工具を準備します（写真1）

未使用のカートリッジボンベと再生に必要な工具のプラ角レンチとセッテイスプリングを準備します。

注意 ⚠ カートリッジボンベは手動のサイズを使用できない。

2.キーボックスにセッテイスプリングを差し込みます（写真2）

キーボックスの下面にあるプラ角にセッテイスプリングを差し込み、手で締めます。きつくなったらプラ角レンチを使用下さい。
（ボルトを締めるとキーボールのガイドへ移動します）

3.プラ角レンチでキーボールのガイド中心にくるよう調節します（写真3）

徐々に締めていき内側の金属ガイドを外側ガイドの中心に来るよう調節します。キーボールのガイドが中心に来たら、キーボールをセットします。

4.キーボールをセットします（写真4）

キーボールのリングを穴に深く押し込みます。リングと穴を平行にセットします。うまくハまない場合は、セッテイスプリングを緩めたりリングを爪で押し込んだりします。
写真の〈良い挿入例〉の様に、キーリングがキーボックスのフラスチック部円形穴より、リング全体が均等に沈んだ状態まで挿入してある事を確認してください。

警告 ⚠

〈悪い挿入例〉の様に、キーリングがうまく挿入されていない状態では使用しないでください。本来より、小さい引張で作動したり、自然にキーボールが抜け不意に作動する恐れがあり危険です。

次へ→

写真1

写真2

写真3

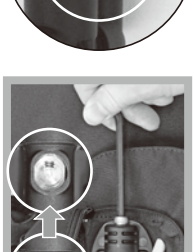
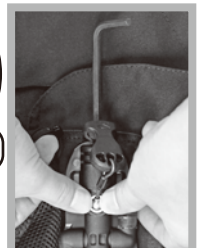
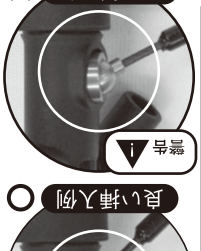


写真4



良い挿入例 ○



警告 ⚠

悪い挿入例 ×